



発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話 ③3033 番
③3034 番
編集人 山下 開
発行人 山下 開
半年間1,000円 送料共

期手闘争の歩みはげし

期手闘争がやってきました。炭労はこれより立ちあがるが、一般的にはすでに早くからたたかわれていて、大手労組はほぼ終り、す

で支給されたところが多い。回答状況は、鉄鋼労連五社が年間七十万円(夏冬各三十五万円平均)で要請。造船大手八社も、約六十五万円(年間)前後。そのほか主要単産の動きは、出版労連の百三十三単組が平均四十万に、大手労組はほぼ終り、す

三池の全労働者は一つだ

持ち場で全力尽そう

定期総会 行動方針を確立

三池労組は十三日荒尾市公会堂で開催した定期大会で、「今後の主体性の確立とは、三池労組のみでなく三池炭鉱に働く労働者を対象とした主体性の確立でなければならない。三池炭鉱の労働者はすべて組合員であることを、全体的に意志統一する思想性を確立」(行動方針の一節)しながら、労働条件の向上、保安体制の強化をめざしたたかひを強める、行動方針を確立した。(写真は、定期総会の模様。総会は、最後までくじけずたたかいたが、停年退職のため組織を離れてゆくのかまに、万雷の拍手を贈った)

総会の席で行われた討論は、こゝろの行動方針が、「われわれの戦略的思想は、三池炭鉱に働くすべての労働者の統一であり、当

炭労など、政府に抗議

夕張災害の責任重大

操業停止し原因究明せよ

新聞やテレビを通じて伝えられたように、六日北炭夕張新炭鉱でガス突出事故発生、そのため五人の坑内労働者が尊い命を奪われた。三池労組はただちに同炭鉱の経営者に電報で抗議するとともに、夕張労組に対し心から哀悼の意を表したが、総評、総評石炭調査団、炭労は連名で河本通産大臣に直接抗議するとともに、今次災害に対する政府の責任を追及した。

こんどの災害が発生した翌七 夫通産大臣に抗議したが、その内 資源である石炭産業を重視する立場から、石炭産業審議会において、その具体策が検討されており、通産大臣に答申されようと考えして

いる。

この重要な時期に発生した災害が関係者に与えた影響ははかり知れないものがあり、とりわけ石炭産業の与望を担って開発され、大月月初めから本格的に操業がはじまったばかりであるだけに、石炭産業の将来に重大な禍根を残したことは否めない。

このことがひいては、年間二千万トン以上の国内出炭を維持することも危ぶまれることになる。このたびの尊い殉職者の霊にむくいるためにも、ガス突出の原因を徹底的に追及すると同時に、政府調査団を直ちに現地に派遣し、今後の抜本的な保安対策を確立することが必要と考える。

石炭産業は、今日私企業という形をとっているが、現実には、政府が年間一億四千万の資金を投入し、経営指導をしている立場から、今次災害に対する政府責任を追及すると同時に、ここに強く抗議する。

あわせて、次の諸点について明らかにされたい。

一、今次災害の原因を徹底的に究明すること。

二、その対策が明らかになるまで、操業を停止すること。

三、原因究明と合わせて、今後の抜本的な保安対策を確立するため、通産大臣を長とする政府石炭調査団を派遣すること。

政府は、十分な責任をとるべきである。

山田さんら五人が死亡

人が死亡

北炭夕張新炭鉱(北海道炭鉱汽船の経営。斎藤公社長と、和田秀雄社長)のガス突出事故は、六日午前〇時五十五分頃、坑口から二百五十メートルほど深くはいた、上層上坑道立坑で起き

による窒息が直接の死因と伝えられた。

炭労はその日のうちに現地対策委員会を設置、対策の全般的指導に乗り出した。

十日、現地で悲しみも新たに合同葬が営まれたが、この日炭労指令にもつき夕張新炭鉱労組は二十四時間ストをもつて会社を抗議、全支部はそれぞれ抗議電などを中心として統一行動を展開、抗議の意志を表明した。

こんどの夕張新炭鉱の災害も、出炭だけをあせる生産第一主義が生んだものだ、ということに疑うわけにはいかない。

来賓の人々

総会にはまた、多数の来賓が祝いに駆けつけたが、それには次のような人々がある。

組合代議士(社会党代表) 松石米ノ山病院長(共産党代表)、魚返熊本県評事務

たことだ。

ともあれ、行動方針が指摘しているように、三池労組の前には依然として重要な課題が山積している。そのうち一つとして、三池の全労働者の統一闘争の方向をうち出したことは、積極的な意義をもつものとして評価すべきだ、ということ、その点一致して確認され

停年退職者を表彰

別れるなまに万雷の拍手

定期総会は、停年退職とともに組織から離れてゆくなかま三十九人(三十九人)の退去を惜しむ人々のため表彰式を行い、「不滅の功績」(表彰状の一節)を万雷の拍手を贈ったが、その人々には次の通りである。(敬称略)

宮浦指導部関係

大坪邦雄、藤崎定男、太田重友

三川指導部関係

原口常一、富田文次郎、谷口正己、柴田久男、木下吉次、石浦

齊、広木源作、松本忠義、小山

貞雄、佐藤清男、永田邦治、井

上平、金子静雄、戸泉孝、前川

深之、松岡健太郎、秋田直、瀧

美孝、秋庭一夫、徳田中直、上

島春光、坂井武義、佐藤悟、内

野義次、仲田西里、田中忠義、

浜崎一久、内藤利秋、塩塚伍

一、酒井繁富

本所指導部関係

益山文雄

港務指導部関係

森鉄雄

三作支部関係

宮丸末春、蓮尾朝男

四山指導部関係

坂本敏雄(死) なお、受難者一同を代表して、原口常一さんがあふれようとする涙をげんぐりにこらえながら次のようにあいさつを行った。

「私として終生忘れられないことは、あの再度にわたった三川鉱災害と、組織分裂です。

一つは私自身〇〇患者となり、もう一つは昨日までもに腕を組んでたかたがたなかまとして分れ分れに歩道を強制され、不当な差別とたたかうことを余儀なくされたのでした。

そのなかで私たちが偉大な三池労組の組合員としての誇りに胸をはって、退職する日をむかえました。私はその間組合から暖かく守られてきましたが、新労組の患者は完全に棄てられています。

不幸な分裂はここを克服して、楽しい職場をつくらなければなりません。今日の表彰、ほんとうにありがとうございます。